

英語科

「学び合い」を促す表現活動の工夫 ②

提案者 青柳 有季 大里 信子 末岡 敏明

キーワード 英語学習意欲 学び合い 学校紹介

1. 英語科における「深い学び」とは

語学というものは、授業者が教えれば上達するのではなく、生徒が日常から豊富に練習したり活用したりしなければ上達できない。そのために、授業者は学習の一つのまとまりとして、定期的に数カ月に1回の割合で、学んだ表現や言語材料を総括し、統合的な活動を行うようにしている。その達成を意識しながら、日々の授業を考え組み立てているのだが、その統合的な活動の内容として大切にしているのは、次の3つである。

- 1) 生徒が意欲を持ち続け、継続して主体的に取り組めるもの。
- 2) 自己関連性があり、身近に感じられるもの。
- 3) 振り返り・学び合い・深め合いといった、自分と他者との往還によって育まれるもの。

また、この統合的な活動を行う「目標」を次のように考え、この目標へ向かう姿を「深い学び」ととらえている。

- 1) 英語を実際に使うことにより、コミュニケーションの楽しさ、または達成感や伸長を実感することができ、学習への意欲を高めることができる。
- 2) 英語を実際に使うことにより、間違いを訂正されたり、仲間のより良い表現に気づいたり、それぞれの課題・習熟に応じて英語力の伸長を図ることができる。
- 3) それぞれの個性・特性を活かした取り組みや創意工夫ができる。
- 4) 必然性を持ってペア・グループワークでの「学び合い」のスタイルを取り入れることができ、相互交流を図ることができる。

この「深い学び」には、生徒の「学習意欲を高めること」が必要不可欠であり、それを英語科では次のように考えている。

1.1. 英語科における「意欲を高める」とは

「思考力・判断力・表現力等」を育成することを目指して改訂された「新学習指導要領」には、生徒たちが教室で「対話し、学び合う姿」が描かれている。「思考力・判断力・表現力等」を伸ばす活動が、それぞれに学習者の「英語学習意欲」を支えている。一口に「英語学習意欲の促進」と言っても、それには様々な要素が複雑に絡み合っており、その仕組みについて正確に理解することは困難だし、「こうすれば間違いない」というような結論も簡単には見つからない。しかし、現在の日本人学習者が持っている一般的な傾向を知り、今後の方策を立てることは大切である。そこで、「英語学習意欲を促進する要因を解明すること」を目的とした言語教育振興財団助成研究の「調査研究報告書」を参考にしたい。

その調査結果の「学習者の意欲をどうやったら高めていけるか」という視点から、我々授業者に対していくつかの提言が出された。大変興味深いのでその中から抜粋して紹介したい。

1.1.1. 「できた」ということによる肯定的体験

「分かった」、「できた」という達成感は年齢を問わず嬉しいものであり、生徒の成功をしっかりと褒めることも生徒の学習意欲を促進する。ただ、目標がはっきりしている生徒ばかりでない教室においては、生徒のレベルを考慮し、達成感を実感できる授業を工夫することが肝心である。そのためには普段から生徒のことをよく知り、一人ひとりに合わせた指導ができるよう心掛けておくことが大切である。

1.1.2. 通常の授業とは異なる外国文化・外国人との接触体験

相手の文化や社会に対する興味関心を持たせることは、第二言語習得の研究で「統合的動機付け」と言われるものである。外国人や外国文化との直接的な接触体験も、「統合的動機付け」と同種類のものと考えられ、学習意欲を促進するものである。また、直接外国人との接触がなくても、英語が実社会で通用し、使われているという実感を持たせることも学習意欲につながる。日頃の授業でいかに英語と生徒の実生活とのつながりを持たせるように工夫するかが大切である。日常生活に役に立つと言われる表現や話題を紹介しても、生徒にそのような実感が無い場合は積極的に学ぼうとする態度には結びつきにくい。学習そのものが本物のコミュニケーション活動の要素を盛り込めるかが学習意欲に大きく作用する。

1.1.3. 教室内での不安感

教室内での不安感は学習意欲を阻害する要素を含んでいる。しかし、適度の緊張感は、集中力を高めるために必要であり、生徒も授業に緊張感があること自体は肯定的に捉えている。緊張感が不安感につながるかどうかは受け止め方に個人差が見られる。したがって、授業での発言や間違いが生徒に不安感を抱かせないクラスの雰囲気づくりが重要である。いきなり個人指名をして、静まりかえったクラスの前で発言をさせることなどは著しく不安感を煽る危険性がある。そのような時には必要に応じてペアワークやグループワークを取り入れたりして緊張感を和らげる工夫をすることも必要である。また、「授業者は何を生徒に達成させたいのか」、「生徒はどのようなスキルを習得するのか」を明確にして行う授業活動は生徒の学習意欲を喚起しやすい。

以上の3つのことから、「英語学習意欲」は英語力伸長だけではなく、不安のない雰囲気の中で表現の喜びや思考の深化を実感できて持てるものであることが読み取れる。英語科では、生徒たちが「学び合い」の中で、彼らの「意欲を高める」ことができるような指導の工夫を常に心掛けていきたい。

2. 「英語科の研究主題」設定の理由

本年度の本校の研究主題は以下の通りである。

「学ぶ意欲を持ち、追求していく生徒の育成～『深い学び』の創造をめざして～」(第二年次)

そして、本年度の英語科の研究主題は以下の通りである。

『『学び合い』を促す表現活動の工夫』(第二年次)

英語科にとって「学びを追求していく生徒の育成」とは、すなわち「自己関連性を高めるタスクに挑戦する生徒の育成」となる。本年度の副題は「学校紹介2年生編」であり、最終的な目標は、『『学校紹